

心豊かな世代が育つ

童話の里づくり 387

―シリーズ― あなたの人權・わたしの人權

『学び合い』について

古後小学校 五年

宿利 悠太

ぼくたち古後小学校では、『学び合い』の学習をしています。

最初に『学び合い』を知ったのは、四年生の時でした。

新しく来た畝原先生が

「この教室では、『教え合い』『じゃなく』『学び合い』をします。」
と言われた時、

「この先生は何を言っているの？『教え合い』と『学び合い』の何が違うの？」

と、正直思いました。

でも、一時間の授業をきっかけに、ガラッと自分の考えがわかりました。

その授業は、一人ではわからなかった(できなかった)ことも他の人と

一緒に学習すれば、わかる(できる)ようになり、友だちと一緒に次のステップに進めるというものでした。

友だちがつまづいている時は、自分が助けてあげるし、自分がわからない時は、友だちが助けてくれます。

だから、おたがい助け合えばあうほどお得なのだという内容でした。

この授業で、ぼくは「きっとこれは勉強だけには限らない。」と思えました。

と同時に、「逆の見方をすれば、一度友だちを見捨ててしまうと、同じように自分が困った時、だれからも助けてもらえないようになるのではないか。」ということを考えました。

大人になり社会に出たら、見捨てるとか助け合えない、そんなことがあるのではないかと不安になりました。

あれから一年がたち、ぼくは五年生です。

今は、つまづいている人がいたら、自分から教えにいくように心がけています。

だから、自分のことだけをやるわけにはいかないのです、自学などで予習・復習をしなければなりません。

少し大変ですが、人に教えることは復習にもなるし、近くに行って、相手にわかるように話すことはコミュニケーションの力がつくことにもつながるので、よいことづくしです。

この一年と一学期間で、ぼくは『教え合い』と『学び合い』のちがいを考えました。

○『教え合い』とは、勉強だけを教え合うこと。

○『学び合い』とは、勉強だけに限らず、おたがいのよいところを学び合い、それを自分につなげて活かすこと。

また、相手が苦手なところを自分が、自分が苦手なところを相手がといふふうにおぎない、協力し合うこと。

これが、ぼくが学び考えた『教え合い』と『学び合い』のちがいです。

これからも『学び合い』の学習を通して、友だちとともに大きく成長し続けたいです。

『学び合い』は、勉強だけに限らず、お互いのよいところを学び合い、それを自分につなげて活かすことと悠太さんは述べています。

共に学び成長している古後小学校の様子がよくわかりますね。

この人權作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。

また、みなさんの投稿もお待ちしております。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを一二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して(匿名も可)、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人權」までお届けください。

